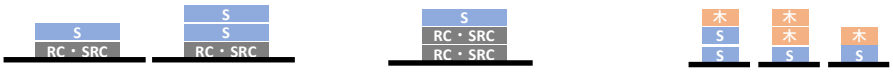
対象：木造、ＲＣ造及びＳＲＣ造のうち１の構造とＳ造とを併用する建築物
※第四号イからへまでに該当するものを除く

START

イ　地階を除く階数３以下で、いずれかの構造に該当
(1)1階RC造orSRC造2階以上S造　(2)1・2階RC造orSRC造3階S造　(3)S造と木造併用



NO
YES

ロ　高さ≦１６ｍ　NO
YES

ハ　延べ面積≦５００㎡　NO
YES

ニ　Ｓ造部分について
一号イ(2)　スパン≦６ｍ　NO
YES
一号イ(5)　筋かい端部及び接合部の検討　NO
YES
一号ロ(5)　偏心率Ｒｅ≦０．１５　NO
YES
一号ロ(8)　柱、はりの仕口及び継手の検討
局部座屈の防止・柱脚部の破壊防止　NO
YES
一号ハ(2)　C_0≧０．３での検討　NO
YES
一号ハ(2)　ブレース種別に応じた応力割増
冷間成形角型鋼管による応力割増　NO
YES
一号ハ(3)　層間変形角　≦　１/２００
※ ≦1/１２０の緩和なし　NO
YES
一号ハ(4)
一号ハ(5)　幅厚比の検討
※ 梁の制限値が１−２と異なる　NO
YES

ホ　ＲＣ造部分について
二号イ(1)　$\Sigma 2.5\alpha A_w + \Sigma 0.7\alpha A_c \geqq ZWA_i$　NO
かつ
二号イ(2)　$Q_D = \min\{Q_L + {}_nQ_E,\ Q_0 + Q_y\}$
ｎ＝１．５(耐震壁は２．０)以上
による構造計算　NO
YES

設計方法がルート２(Fesを含む許容応力度等計算)or
ルート３(保有水平耐力計算)or限界耐力計算である。　YES
NO

新大臣認定プログラムを使用して計算している。(含むルート１)　YES
NO

構造計算適合性判定対象外

構造計算適合性判定対象